

執筆者一覧（掲載順）

萩 谷 良 太	土浦市教育委員会文化課 学芸員 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科修了生
佐々木 長 生	元福島県立博物館 学芸員 元神奈川大学国際常民文化研究機構 共同研究員
諸 葛 衍	非文字資料研究センター 2014年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
金 泰 順	元 COE 調査協力研究者
渡 邊 奈 津 子	非文字資料研究センター 研究協力者 公益財団法人 大学基準協会 調査員
中 島 三 千 男	非文字資料研究センター 客員研究員 神奈川大学 名誉教授
王 新 艶	非文字資料研究センター 2014年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
小 泉 優 莉 菜	非文字資料研究センター 2014年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
古 俣 和 将	非文字資料研究センター 2014年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻 博士前期課程
鍋 田 尚 子	非文字資料研究センター 2014年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

■編集後記

年報第12号をお届けします。2015年度の非文字資料研究のまとめとなる本書では、海外神社班の共同執筆からなる論文や、祭礼図や農耕屏風についての分析など、日本の地方文化や植民地といった「オルタナティブ」を論じたものが目立ちました。図像資料の分析やフィールドワークなど、手堅い手法に支えられながら、新しい観点を提示しようとする研究は、領域外の研究者にとっても刺激となるように思われます。

また毎年のように、若手研究者の奨励研究成果論文も4編収められています。非文字資料研究センターの助成によって可能となったフィールドワークを元にして、今回も非文字資料研究がカバーする地域や領域を拡大してくれるような論文が揃いました。家族制度や信仰形態、住宅環境や民間習俗など、対象はさまざまでも、多くの人への取材や「もの」に対する細部にわたったこだわりによって生まれた成果であることは共通しており、今後の展開が期待されます。

次号から『年報非文字資料研究』は年一回発行から年二回発行へと拡大し、「年報」がとれて『非文字資料研究』へとリニューアルします。次号は2016年度秋に発行を予定していますが、すでに原稿も数多く寄せられており、通常の年報よりもページ数が変わらないか、むしろ増えるのではないかと気をもんでいます。今年の秋は、豊かな研究成果も実る秋となることを祈念しています。(熊谷)

■表紙説明

本号の表紙・裏表紙については、『日本常民生活絵引』より、「裁縫」と「炊事」と題された図版を使用しました。女性たちのどこか楽しげな、生命力あふれる姿が印象深く、今回、論集を飾るものとして使わせていただきました。『日本常民生活絵引』を編集した先生方に感謝申し上げます。

詳細は『絵引』解説に当たるのが一番ですが、二つの図版とも、『石山寺縁起絵巻』第五巻、藤原国能の邸宅を描いたものです。国能は貧しい文人貴族で、妻との間に子供をもうけられませんでした。離縁された妻は石山寺に籠ることで観音の靈験にあずかることで、家運は上がり、子孫も繁栄するという物語です。表紙の「裁縫」は赤ちゃんのために産着を縫っていると推測されており、はさみではなく小刀で布を断つなど、時代による道具の違いを感じるとともに、女性たちのおしゃべりの声が聞こえてきそうな光景です。

裏表紙の「炊事」では三人の女性が忙しく台所で食事の支度をしています。上で沸騰している窯を扇で仰ぐ女性、山盛りの飯などを載せた高杯を持つ女性……。右に見える棚には木の実や魚、酒壺などが置かれ、これもまたにぎやかな光景が繰り広げられています。女性の空間を示すこれら二つの図版からは、女性の一途な信仰が家庭に幸福をもたらす、というこの物語のメッセージが伝わってくるかのようです。

年報 非文字資料研究 第12号

The Annual Report: the Study of Nonwritten Cultural Materials No. 12

発行日	2016年3月20日
編集・発行	神奈川県立 日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 1883-9169